

鹿地・三橋事件

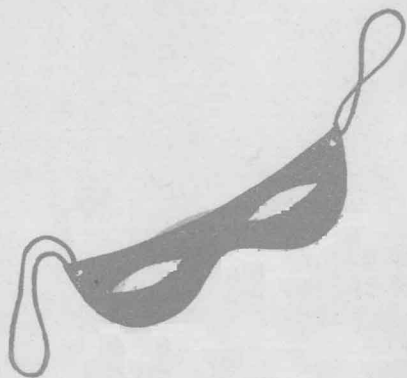
記者新聞賣読
山一本

編 昇



鹿地・三橋事件

読売新聞記者 山本 昇 編



駿河台書房

編者略歴

日本大学法文学部社会学科卒。昭和廿一年時事新報入社、警視庁裁判所都庁各クラブ詰、廿三年日大々学院に学ぶ。廿五年読売新聞入社、裁判所クラブ詰。

鹿地・三橋事件



昭和廿八年五月十日 印刷
昭和廿八年五月廿日 初版発行

定価 二四〇円

地方買値 二五〇円

編者 山本 昇

発行者 東京都千代田区神田駿河台一の六
駒津恒治郎

印刷者 東京都千代田区神田三崎町二の三
谷中田 宏

発行所 東京都千代田区神田駿河台一の六
駿河台書房

電話神田(25)〇一一一〇一八番
振替 東京一六二七四番

目次

第一部 鹿地・三橋事件の全貌……………一

一、三橋正雄という男……………二

「鹿地氏はソ連のスパイだ」と自首・スパイは愛国の至情からやつた・自然の流れのままに・私は日本人ではなかつたか?!・もうスパイは真平だ!・真実はただ一つ

二、事件の発端から公判まで……………七

失踪中の鹿地氏現わる・鹿地氏『私は米軍に監禁されていた』・精魂つきて自殺図る
米大使館、沈黙を破る・鹿地氏監禁の家は四軒・三橋はダブルスパイ

三、公判の全貌……………一七

一、三ソ連人が指令(初公判)……………一七

覆面ぬいでカメラに収る・有為転変、三橋の行動・日ソ人のほか米軍情報部員も登場
容疑事実は十三項目・斎藤長官、キャノン中佐と交際・鹿地氏『自供書は強いられたものだ』・臨月の妻和子さんの臨床尋問・鹿地氏、病状診断を拒否

二、法廷で妻を気づかう三橋(第二回公判)……………二七

『子供が生れた』にニッコリ・夫をかばう妻、和子さん・五十六万円で住宅新築・ソ連

代表部員ら突如帰国・衆院法務委、両者の対決を急ぐ・鹿地氏、入院を声明・遊佐
医師宅で怪発砲事件

三、人形の中に暗号電文(第三回公判)……………三四

物証に鹿地氏から貰った人形も・ハガキ紛失問題起る

四、紛失葉書の実在証言(第四回公判)……………三六

「光橋」と書いたハガキ・三ソ連人の覆面をはぐ・ソ連代表部、召喚状を突返す

五、三橋スパイの全貌を語る(第五回公判)……………四二

ソ連でスパイの誓約書・遂に米国側に通ず・佐々木元大佐と連絡・鹿地氏と鶴沼で密
会の指示・鹿地氏『日本の革命は時間の問題』・鹿地氏、米軍に捕わる

六、ソ連謀報網の撲滅を図る(第六回公判)……………五一

暗号電文は読めなかつた・二重スパイは日本のため・公判のヤマは両者の対決・鹿地
氏手記『三橋自供はウソ』・米誌評『鹿地は共産党の手先』

七、鹿地氏の病状出廷不能(第七回公判)……………五八

鹿地氏は臨床尋問もできぬ・米大使館『不当に監禁せず』・鹿地氏の言は逃口上・日
本人に感謝されたい・三橋と鹿地氏の対決お流れ

八、実姉藤子さんから証言(第八回公判)……………六四

三橋は仕事熱心で実直・三橋ゼスチュア混りで説明(実地検証)

九、懲役六月求刑(第九回公判)……………六八

電波法違反の罰則適用

十、有罪懲役四月(判決)……………七〇

健全な社会生活を乱すもの・無電勉強に近く渡米か?・金に釣られたのではない・不幸な星の下に

第二部 事件 余話……………七

一、鹿地・三橋事件の国際的規模……………七八

戦後最大のスパイ事件・CIAの大失策?・ゾルゲ事件にも関連か?

二、三橋暗号の実体……………八四

米軍側は解読か?・怪電波の摘発に糸口?

三、鹿地自供書の内容(斎藤長官証言)……………八七

話しかけてきたナゾのソ連人・サマーハウスの密談・三橋と連絡してくれ

四、鹿地氏の看護婦ナゾの失踪……………九三

鹿地氏がかくした?・アカハタを売っていた女性

第三部 手記……………九七

弁護人は訴える 溝淵春次……………九八

第二審の無罪を確信・公務所に対する照会請求書

妻の立場 三橋和子……………一〇五

姉の立場 三橋藤子……………一〇五

検事の立場 東京地検と山本記者の問一答……………一〇六

記者の立場 山本 昇……………一〇八

一方的な証拠資料・ウヤムヤな不法逮捕問題・鹿地氏よ、貴方は卑怯だ！・某権威筋とは、こういう人だ・鹿地氏は上京したことがある・堂々と三橋と対決せよ

鹿地氏への公開状 三橋正雄……………一二三

『陰謀への公開状』に物申す・単なる日和見主義ではない・記憶力の良いのはスパイのイロハ・「方向問題」は奇妙な言懸り・上京の足跡は歴然・機械は偽らず・証人は買収されず・万一に備えた秘密通信・貴方は共同正犯だ・虫のいい貴方の言分

第四部 三橋の告白……………一三三

一、満州・ソ連での行動……………一三四

早くも無電技術に目星・てんやわんやのシベリヤ行・マルシヤンスク収容所へ・ラジオ修理に活躍・大膽なロシア娘・日本の放送は聞えない・収容所で民主化運動・日本語のうまい極東情報部長・科学知識は非常に低い・モスクワでスパイの訓練・日本字でスパイの誓約書・スパイ教育あの手この手・モスクワの赤い広場・アメリカンスタイルの服装や自動車・陽気に歌を唄うロシア人・雪のモスクワから帰国の途へ・帰国

以外に慾はなかつた

二、私はこうして鹿地氏とレボした……………一六七

アロハ、シャツの鹿地氏現わる・薬の空箱に秘密電文・神宮外苑で密会の約束・ソ連側の監視にはビクビク・とまどつた水晶の周波数表・歓待したソ連代表部・絶対判らない暗号電波・丁重だつた岩崎邸での待遇・無意味な気苦労はしない・ソ連諜報網に大打撃・もうスパイ生活は沢山だ

第五部 鹿地氏は訴える ― 国会法務委員会速記録 ―……………一九七

法務委の論争とその結論……………一九八

第一回 法務委速記録……………二〇〇

突如鹿地氏帰る、搜索中止・山田証言を立証する奇怪な事実・日本国民の生命を守れ活劇もどきの鹿地氏逮捕・国警は何をやっているのか・あちら様には平々・尤も・スパイにならねば暗殺する・的確な失踪情報つかめず・外務省問合せに応答なし・安閑としすぎる外務省・米側抑留の事実 は明々白々・不親切極まる外相の答弁・鹿地氏奪回も当然起る・事実なら法務省も動く

第二回 法務委速記録……………二二三

問題の鹿地氏、証言台に立つ・上海で中国人と反戦運動・清瀨病院で胸郭大手術・いきなり鳩尾に一発！・自由と尊厳の名において・名前を云わねば拷問する・ひそかに

抵抗の準備・愛国者山田君が外部と連絡・三回も自殺に失敗・『車にひかれて』と家族に通信・国民の声援で突然釈放・知らぬはずはないCIC・米国に協力しろと迫る・日共にも入党していない・東銀クラブにCIC派遣隊・『信念を守つて死ぬ・鹿地』・室内での自由は許された・遺書は光田がポケットに……その夜外人グラスコーと添寝・勢力争いで岩崎邸機関潰る・上海で鹿地氏と初対面・鹿地氏と親交した陳誠將軍

第三回 法務委速記録………

一五三

CIC以外の諜報機関は不明・外人の犯罪は国警々備第二課で・私服で重大犯を扱うCID・同姓異人？二人の二世高橋・民間外国諜報機関は知らぬ・新聞に出しぬかれた代官山の家・国警も鹿地はスパイに同意・G大佐も証人として呼べ・独立後は逮捕の権限なし・いま関係事件を取調べ中・某国のスパイだつたと認める・強要された二カ条の署名・問題となつた『英文怪文書』

第四回 法務委速記録………

一五二

三橋某なる者は知らぬ・筋書通りに自供書をかく・三橋とのレボなど実話風に……詩や小説のノット差押え・デツチ上げるなら私も暴露・突如、沖繩へ死の飛行・自供書はただ一通だけ？米軍用機羽田飛行場を出発・処置の決るまで外国へ行く・東京から至急帰還の電報・いよく殺されると思つた・謀殺の環境が作られつつある・意識モウロウの中で自供書・看護婦が夫の失踪知らず・警視庁捜査は鹿地証言と同じ・参考人は鹿地自殺を裏付け・各USハウスの鹿地氏はいた・米側関係者も調べねば駄目・

日本刑法違反者には捜査権あり・一方的捜査では断定できぬ・不法監禁者は出頭の義務・米側に調査の申し入れ・鹿地自供書は二通ある・三橋自供を立証する無電・米大使館から中間的回答・無通告は米側の手落ち

第五回 法務委速記録.....三二

鹿地氏に深まる疑惑・鹿地氏横書き自供書も書く・十一節五十八頁の自供書・「鹿地」とは知らなかつた三橋・スパイは犯罪に問われない・米大使館「懸念は根拠なし」・鹿地を守るためカギをかけた・一私人の保護として通告せず・甚だ遺憾不誠意な回答講和後通告しなくて済むのか・秘密機関と直接取引でいいか・場合によつてはジカに連絡・ぶつそな服部・下村機関・米大使館回答の根拠は何か・三橋を出して一挙に解決せよ・米軍に留置されたナゾの三カ月・現段階では鹿地陳述を重視・三橋自供は芝居ではないか・三橋事件には早すぎる捜査・釈放前に鹿地保護の通告・国警と秘密機関との会合なし・頼まれた鹿地氏の身辺保護・外交交渉によらぬ連絡もある・回答の相手は公けの某機関・結論うるため三橋を召喚せよ・手続を怠つたアメリカの黒星不法監禁の事実が消えず

第七回 法務委速記録.....三四

『不法拘禁せざる根拠は充分』・重ね／＼遺憾な米側回答

附 鹿地・三橋事件日記.....三四九

本書の成立について 溝淵春次.....三五三

編者の言 葉 山本 昇.....三五七

第一部 鹿地・三橋事件の全貌

一、三橋正雄という男

「鹿地氏はソ連のスパイだ」と自首

『私は米軍による鹿地氏逮捕の真相を明らかにするために自首したので――』

これは昭和二十七年十二月九日国警都本部に出頭した帝国電波株式会社技術課長三橋正雄（三九）
Ⅱ都下北多摩郡保谷町下保谷二三八Ⅱ自首の第一の弁であつた。

この自首者三橋のいう鹿地氏の逮捕事件とは一昨年暮、作家鹿地氏が茅ヶ崎海岸で突如米軍によつて逮捕され、それ以来失踪しているという驚くべき事件で、これが明らかにされるや新聞、国会方面で大問題になつていただけに、世間は二度ビックリといつた騒ぎであつた。なにしろ独立後、約半歳の後に、こういうことが行われていたことが明らかになつたのであるから、この事件をめぐつて日本国内にくすぶり続けていた反米熱が一時に爆発し、世間は、いよく騒然として来た。

カラクリ、デッチアゲ、芝居だ等々と、鹿地問題に間髪を入れない奇妙な男の登場に、目を見はつた国民は、こう異口同音にこの事件に対する疑惑を深めた。さらに国警は三橋の自供であるとして、

「鹿地氏はソ連のスパイだつた」

と公表した。

こうなると、疑惑はますます濃く拡がつて行く一方だつた。

スパイは愛国の至情からやつた

『私のスパイ行為は、愛国の至情に燃えてやつたのだ』

この三橋の第二の弁、それは東京地裁の初公判を明日にひかえた廿八年二月六日の夜、東京小菅の拘留所で司法記者の質問に対し、参議院議員溝淵春次弁護人を通じて語つた三橋のコトバである。ところが、これを聞く国民は三橋に顔を逆なでされたような不快さを覚えた。——何故かと云えば、彼三橋が米ソの二重スパイを働き、計二百万円近くタンマリ儲け、家まで新築していることを国民は新聞で知つていたからだ。翌日はじめて公判廷でカメラマンの前に素面をさらした三橋の印象は、各紙ともまちまちだつた。爬虫類のような冷たさ——精神的苦惱をたたえた蒼

白い顔——何かさとり切つた、ひようくとした姿——軍隊口調、不敵なうす笑い——などと報ぜられたが、記者の見た三橋は、

『一切をぶちまけ、世の批判を仰ぎたい』と語り、物おじしないクアッケラカンとした明るさが顔にあつた。

こやつ馬鹿か利巧か？ 記者席で三橋被告の顔をみつめた一法廷記者である私の三橋事件取材の斗志は、全くこの彼の顔をみつめた時、勃然と湧きあがつたものだつた。

自然の流れのままに

『私には難しい理くつは判らない。その場、その事に當つてから、初めてどうしようかと考え、一番よいと思う道に身を処するのが、私の人生観です。先のわからない時は、ムダなとりこし苦労もしなければ、後々の事まであれこれ考えず、ただ自然に与えられた運命に従つて、最善と思う道に自然の流れのままに流されて行く生き方です』

第三の弁、これは二月廿三日第六回公判で、彼が検事からダブルスパイになつた心境を問われた時、答えた人生観だつた。

彼は我々がスパイという言葉から連想されるような、非凡な人間ではなかつた。／＼平凡なオボ

チユニスト〃これが彼の正体なのだろうか。

私は日本人ではなかったか?!

『私は日本人としての立場を忘れていたのでしようかネ』

第四の弁、有罪判決の翌日、三月廿一日午後七時半、東京は芝の料亭〃泉岳〃で溝淵弁護人、藤村秘書、三橋の姉藤子さんなどをまじえた、保釋祝いのスキ焼きの席上にまぎれこんだ記者が、この両耳ではつきり聞きとつた言葉だつた。

彼がやゝうなだれて、ポツンと静かにもらした言葉だつた。これを聞いた記者の姿ほど、あわてたものばなかつた。プイと横を向いて杯を捨て、ビール用のコップにとつくりから酒をあけ、一氣にあおつてしまつた。

何か、ジーンと心にしみこんでくるものがあつた。——誰か罪なき者、石をもてこの女を打て——
——こんなバイブルの言葉が想い出された。

もうスパイは真平だ!

『アメリカに協力するよりほか、日本再建の道はないと思う。勿論今の日本国民の生活が、今

ふんぞりくる!

の日本の政治が、これで良いと言うのではない。とにかくスパイ合戦などというものは、ヤミからヤミに葬られる犠牲者の出る仕事だ。社会不安を招くものだ。こうしたものはない平和な世界が早くくればよいと思う。理想としては再軍備には反対で、絶対中立の立場を支持する』

この第五の弁は、保釋後一週間、三月廿七日夜自宅六疊の間で、和服姿でくつろぎながらコタツをはさんで向き合つた記者に語つた彼の心境であつた。

眞実はただ一つ

はたして〃三橋自供〃は眞実か？ それとも左翼系の主張する如く、鹿地をソ連のスパイにデッチ上げ逮捕問題をゴマ化そうとするアメリカと国警の仕組んだ芝居であろうか？ 鹿地氏は三橋のレポではなかつたのだろうか？ 以下一つく事實を直視して疑問を解いてみよう。

二、事件の発端から公判まで

失踪中の鹿地氏現わる

作家鹿地亘は、何処に連行されたのか、それとも自殺してしまつたのか、ソ連入りをしたのか等々、失踪事件を知つた国民がさまざまの想像をたくましくし、世論の一点がこの問題に集中されていた昭和二十七年十二月七日、正真正銘の鹿地氏が夜八時半頃、突然新宿上落合一の三六の自宅に歸つて来た。驚いたのは新聞ラジオでこれを知つた国民であつたが、妻幸子さん(四三)に対しても、その夜はろく／＼ものも云わずに就寝、八日の早朝には何処ともなく又外出して行つた。それ！又何処か密所へ行つたのかと、報道陣は彼の行方を追いに追つたが、同日午後一時、衆議院で猪俣代議士(社左派)から、

「私は米軍に監禁されていたのだ」

という発表が行われた。

その声明に曰く——私は一年余り米軍当局に監禁されていた。昨日(七日)突然釋放され、こ